

No.15 2014・7・1

NPO 法人 まついだ森の家

〒379-0211

群馬県安中市松井田町上増田670

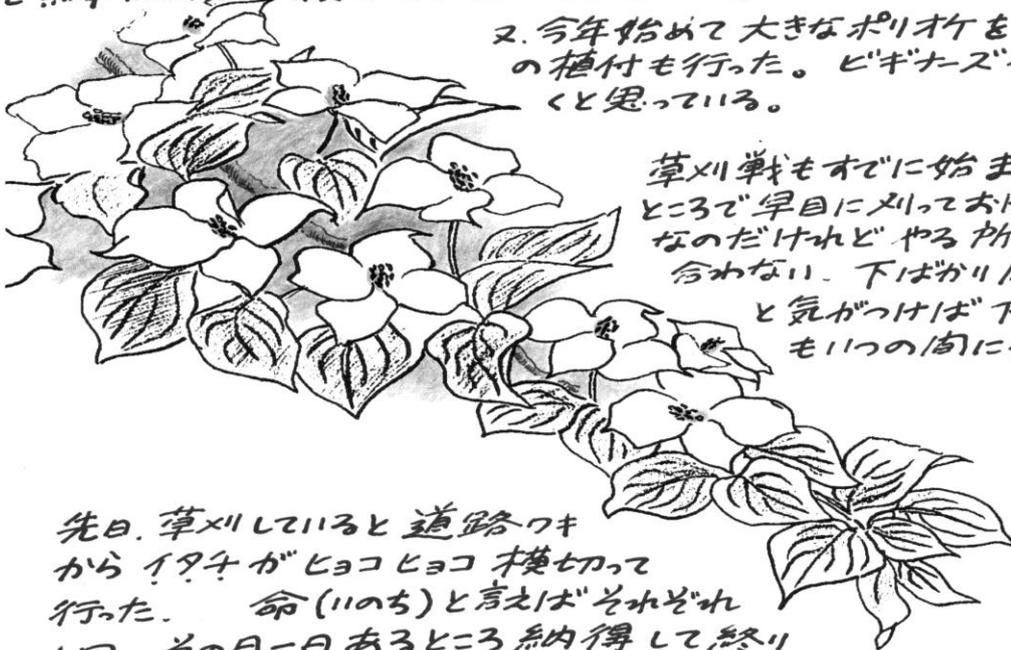
TEL/FAX 027-393-0655

里山日記

文・イラスト 石橋

この冬、田にとっても記録的な積雪となり70~80cmにもなって、家屋、樹木、ビニールハウスなどに被害も出た。行政も早急に除雪が向に合わず2週間近く道路に雪山が残っていた。今は梅雨の頃、ヤマボウシが咲いている。ついにこの向まで雪かきに追われていた事を思うと、枝先に雪が降り積ったように咲いているこの花を見てみると妙な感覚でもある。天候の話になるとこの数年同じ様な事を言っている気もするが、まだ5月なのに猛暑日に近いこの2・3日、やはり変である。天気解説によって理屈で原因が解っても意味が無い。暑いものは暑いという事でありましよう。その暑中Hさんに森の家の畑にシヤガイモを植えていただいた。その作業よりそれをイノシシから守る方が大変な作業で、竹を埋め込んで柵を作るといふ苦戦をしていただいている。その苦勞を見ていると無事収穫を願わずにはいられません。

2. 今年始めて大きなポリオケを土中に埋めてハスの植付も行った。ビギナーズラックできとうまく咲くと思っている。



草刈戦もすでに始まっていて、少しのびたところで早目に刈っておけば後が多少楽なのだけれどやる所が多すぎて向に合わない。下ばかり向いて草刈していると気がつけばアカシヤやフジの花も1つの向にか終っていた。

先日、草刈していると道路ワキからイタチがヒョコヒョコ横切って行った。命(いのち)と言えば「それぞれ」1回。その日一日あるところ納得して終った1ものである。人もイタチもタヌキもそれぞれ1回。



工房あかね作品

二名様か いらっしゃいました



真っ赤な可愛い車にピンクの車いすマーク！
若いお嬢さん二人連れのお泊り。共に車いすです。

この車いすはワンタッチで車輪が取り外せます。ですから、車に乗り込んでから車いすを乗せるときに、両車輪と座席面に3分割され、小さい力でコンパクトに積み込みが可能です。完全自走タイプなので、後ろには押すハンドルがありません。値段は大変高いのですが、自立して生きることを可能にする必須アイテムです。

お一人は事故で、もうお一人は病気で、脊椎損傷による下肢マヒとなり、所沢のリハビリ病院、隣接する職業訓練校を経て、障がい者枠で、東京都と埼玉県の公務員となりました。

今時のおしゃれなお二人、今回は、「ペンション・バリアフリー」に狙い定めて検索、森の家を探し当てたそうです。「フツーに、おしゃれなところに泊まりたいし」

1日目は軽井沢でお目当てのお店でゆっくりランチ。

森の家では、おしゃべりとお風呂を楽しんで、2日目は朝食なしでゆっくり出発。水上方面で、こんにゃく作りにチャレンジされたそうです。

「障がいがあってもなくても、その人の生きる姿勢が大事！。魅力は変わらない」といきる強さをお持ちでした。

「自分でできることをどんどんやっていく・楽しむ・普通に」
車いすバスケットのお仲間でもあるお2人でした。



みんなお客様が いらっしゃいました

心のふるさと まついだ森の家

かんなの里 副施設長 島野健太郎

6年前より、毎年かんなの里では利用者の旅行、ケアホームの利用者による帰省期間の利用をさせていただいています。

かんなの里は、自閉症の方が多いです。旅行は楽しみでもありますが、初めての場所、慣れない所に行くと不安になってしまう人が居ます。

そんな人達でも森の家の黒羽さんはじめスタッフさんたちは、いつでも温かく迎えてくださいます。

そしてきめ細かく親切にしてくださいますので、他ではなかなか泊まれない人達でも、森の家に行くと安心してくつろいでいます。

中には、行く先は色々な所に行っても、泊まる場所は毎回森の家という利用者も居ます。

建物も木のぬくもりがあり、バリアフリーで使いやすく、料理も手作りでもとても美味しくいただいています。

また、ケアホームの利用者で帰省できない人達は、森の家で、GW、お盆休み、年越しと、年に3回ずつ過ごさせていただいています。

帰ってきてから、楽しそうな表情で森の家でのお話を聞いていると、この人達にとっての森の家は、ふるさとのように感じます。

これからもずっと、森の家を利用し続けて行きたいと、かんなの里利用者、職員共々思っています。



かんなの里は、群馬県藤岡市にあります知的障害者支援施設です。西毛地区の障がい者支援の中核機関として、入所、通所、ホーム、相談事業等、幅広く運営しています。

森の家にお泊りの時は、毎年、おなじみの音楽療法ボランティアさんが来てくださって、楽しいひと時を過ごします。



今回は前号でご紹介した「NPO 法人 Annaka ひだまりマルシェ」のスタッフ永井利恵・雄二ご夫妻にお話を伺いました。

利恵さんは、昨秋までまついだ森の家の「森カフェ」（毎週木曜日開店）で月1シェフとしてカレー屋さんをされていました。一時は宿泊の朝食作りも担当され、この通信の編集・カットにも手腕を発揮されていました。森の家をたくさん支えて下さった方です。

そんな利恵さんと森の家との出会いは、5,6年前に「木・水・土」の森の字（活字にできない創作文字です）の考案者、北海道の徳村彰さんの高崎での講演会で、森の家の代表黒羽さんと出会ったことに始まります。

子供の頃からいい子でいることに違和感を覚え、20代後半には息苦しさを感じ耐えきれなくなったと語る利恵さん。ヨガやロハスな生き方（健康と自然環境を大事にする生き方）に出会い、自分なりの生き方を求め続けてきました。同様に、17才の時に対人関係に悩み、重度のアトピーを発症し、ストレスのない生活を求め、インド・オーストラリアなどをさまよった雄二さん。そんなお二人が前橋で出会い、3年半ほど前から松井田に住むようになり、森の家へと導かれました。

昨秋には、ひだまりマルシェ開業とともにカフェ部門担当となり、化学調味料を使わず、地場産の安全な野菜と地鶏を使ったこだわりカレーを提供することになりました。ゆったりした松井田の地で癒され、地元の人と力を合わせ、気持ちのいい仲間とスタッフとして一から仕上げしていくマルシェでの仕事に、今は幸せを感じているそうです。

そしてお互いを、雄二さんは社会復帰のきっかけを与えてくれた利恵さんを「命の恩人」と感じ、利恵さんは「自分の凝り固まっていた枠を取り払ってくれた人」と言っています。出会うべくして出会ったお二人のようです。

美味しさに満たされて、ゆっくりした時間を過ごしていただけるお店にしたいと日々頑張っておられます。色々な経験をされたお二人のカレーは、特別に滋味深いものがあるようです。

出会ったころ、利恵さんは「幸せの神様は前髪しかないから、捕まえるときはしっかり捕まえないとだめだよ。」と雄二さんに言われたそうです。自分達の生き方の完成形を目指して、幸せの神様の前髪をがっちり手にしようと、今日も歩んでいるお二人です。（高橋記）



ひだまりマルシェカフェの営業時間が変更になりました。
水～日（11:00～18:00）

地域活動支援センターまついだ 訪問記



ふれあい館



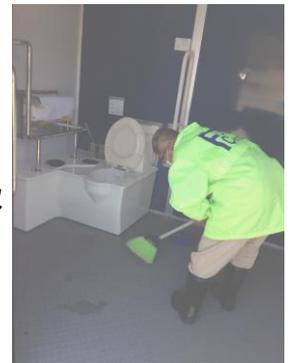
秋桜館

安中市松井田町にある地域活動支援センターまついだ（以下：地活まついだ）に行ってきました。今回は見学&一日ボランティアです。

ここ地活まついだは、平成24年4月に小規模通所授産施設ワーク秋桜まついだと安中市障害者福祉ふれあいセンターが統合されてできた施設です。作業部門と生活部門があり、10代から70代の方々35名が利用されています。生産活動や創作活動を通して就労だけでなく、地域や家庭の中でその人なりの自立を目指して活動しています。作業部門では公共トイレの清掃・菓子箱組み立て・製品の不良検査・手芸品・農作物・豆腐の販売等を行い、生活部門では入浴・機能的訓練・絵画・手芸などを自由に楽しみながら行っています。

この日の午前中は公共トイレの清掃に同行させていただきました。利用者さん2名と職員1名で掃除道具の準備をします。水が思うように使えないトイレもあるため、水を入れた重いポリタンクも持っていきます。まず碓氷湖駐車場のトイレから（ここは3月末で終了）。職員の指示がなくても手際良くどんどん作業に取り掛かる姿に感心しつつ、私も一緒にモップをゴシゴシ。

ここが終わると次は坂本宿→松井田ゆうあい館と続きます。やはり不特定多数の人が使うトイレは思っていた以上に汚れていて作業にも時間がかかりますが、皆黙々と働いています。私も娘との散歩の途中でゆうあい館のトイレには時々寄りますが、いつも綺麗で気持ちよく利用させてもらっています。それはこうした地活まついだの方々のお陰なのだと、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。



このトイレ清掃は、月曜日・金曜日の週2回行っています。冬の寒い時季や夏の暑い時季はとても体力を使う大変な仕事ですが、部屋の中での活動が多いなか、外に出ることで気分転換にもなり、作業中に『ご苦労様です』『ありがとう』と町の方から声を掛けてもらった時などは、地域との繋がりを感じる瞬間でもあります。また、『トイレが綺麗になってみんなが喜んでくれるのが嬉しい』と利用者さん自身も喜びを感じています。トイレ清掃を始めた事で、自宅でも進んでお手伝いをするようになった利用者さんもいます。私自身この仕事を手伝ってみて、地域の人の為に役立っていると感じる仕事をするということはとても気持ちのいい事だと実感しました。

地活まついだではトイレ掃除の他に、碓氷湖周辺とめがね橋駐車場のゴミ拾いを安中市から委託されて行っていますが、町全体を見渡すと、障害者でも出来る仕事ももっといろいろあるのではないかと感じました。障害者と地域とを結び付けるには、イベント的な催しの他、日常のちょっとした関わりの積み重ねが大切なのではないでしょうか。そんな事を強く考えさせられた貴重な一日でした。

(児玉 記)

安中市地域活動支援センターまついだ

〒379-0221 安中市松井田町新堀 372-1

※西松井田駅から徒歩3分

tel 027-393-1692 (秋桜館)

tel 027-393-1212 (ふれあい館)

小さな花になりたくて

内田 康子



私は 子供の頃は軽度。今は中度。徐々に重度になって行きそうな、脳性マヒを神様からプレゼントされたチャレンジドです。30歳まで生きていられるかどうかと言われた事もありますが、現在、更年期とか言う症状で、辛い日々です。こういう事だけは人並みにやって来るものかと、今、生きている事に、どうリアクションしたら良いのかちょっと悩みます。そして、生きる事に日々チャレンジ出来ている事に感謝しています。

私は、人様から見たら、きっと憐みと同情の対象で、何となく近付きがたい存在かもしれません。一人の自立した存在として見られる事はあまり無く、誰かに支えてもらってやっと生きている役立たずの存在かも知れません。

私くらいの年代には、ポリオの流行があったのか脳性マヒ児が多く、当時の福祉事情から行っても受け入れ体制もなく、軽度だった私は普通教育の場で育ちました。ご多分にもれず、いじめにも会いました。保育園に初めて行った日に石を投げられて怖くて行けませんでした。でも当時の私は、行かない理由をどう表現したら良いか解からずに、ひたすら泣いて「嫌だ」を表明しました。

「保育園には行かなくていいから学校には行くんだよ。」

という祖母の言葉に救われて、祖母との約束で学校には行かなければと、硬く思いました。

学校生活は 両親 学校側 教師の先生方、今思えばいろいろなご配慮を頂いて、家の近くの普通学級に通いました。

人生は平たんな道はなくて、ゴロゴロと石のある道を転んで怪我をしても起きて、また歩き始めれば良いという事を学び、そんな事の繰り返しでした。何度転んでも起き上がったのはきつと多くの支えがあったからに違いありません。幸いな事に、一人暮らしをして高等教育まで受ける事が出来ました。

障害者なのに健常者になる事を期待され、要求される場面に遭遇することも多くありました。社会で障害者が一人前と認めもらうためには、普通の健常者以上の能力がないと認めてもらえないのだと思いながら成長しました。私は健常者なのだと自分に思い込ませて頑張ってきました。

今の自分はどうかと言えば、加齢のため、障害も重くなり、体力も無くなり、持ち前の頑張りも利かなくなりました。ある時、ふと、私は障害者である自分と向き合わなくてはやって行けなくなりました。出来ない自分を思い知らされ愕然としました。それは今まで味わった事ない敗北感でした。

森の家と関わりが深くなって来たのもその頃です。車の運転も大変になって来たので、自力で森の家まで行けなくなりました。もうお役御免かなあと思っていました。自分の事さえ満足できないのに、人様のお役に立つなんて無理だと限界を感じました。そんな時、運転手を買って出る方が現れて下さいました(たぶん理事長のご配慮で)。そうしたらとても楽なのです。出来ない事を頑張ってしまうと辛くて大変で自信が無くなってしまおうのですが、出来ないと自分で認めて、表明すると、助けて下さる方がいるのです。わたしには大変なことなのに、助けてくださる方にとっては大変でも何でもない事の様でした。

そんな事で、まだ森の家にはほんの少し、私の居場所があるように思います。そして出来ない自分も悪くないと思え、障害を持っているコンプレックスからも少し解放されて来たように思います。

「そのままOK」という言葉を考えてくれたボランティアスタッフがいます。障害があるとかないとか関係なく、こころが疲れたとか、休養が必要とか 誰にも気兼ねなく、人目を気にせず、そのままの自分を受け入れて貰えるところという意味です。だれでも、どんな障害の方でも快適に過ごせる居場所を作るのは大変な事です。理想郷の様なものです。きれいな事じゃなくてびっくりする事もたくさんあります。そのびっくりするような事の中に、宝物が隠されていたり、気が付きます。それをみんなで超えて行こうとする時に次のドアが開いて行くように思うようになりました。

これからの事は誰にもわかりませんが、時が来ると花が咲くように、小さな花たちが、森の家を包んで心地よい香りが漂い出し、必要としている方のところに届く事を願っています。そして、私も出来そうな事をちょっとだけさせていただけたら……。

空に向かって咲く、小さな花になれたらなんて素敵なことでしょう。

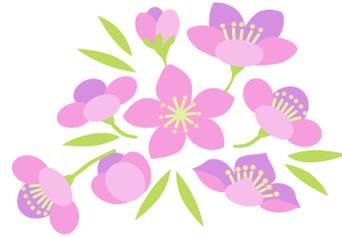


内田康子 プロフィール

旧松井田町に生まれ現在に至る 長野大学社会福祉学科卒業
バイト生活 加藤印刷 軽井沢パイブルハウス 社会福祉法人ゆきわりそう他
アートカフェテラス「こんぺいとう」経営 障害者の作品紹介・アーティストの発掘等
好きな事 ブログを書く 絵を描く 美味しい物を食べる
やりたい事 個展を開く 行きたいところに行く 無理をせずに楽しく生きる
気兼ねなくいろんな事を頼みあえる仕組みを作る

転々コラム

春よ、逝け



穏やかな心で春を過ごすために毎年悪戦苦闘しています。徘徊の発作を起こしやすいのは、決まって春。幸いにして花粉アレルギーはないものの、風邪などで身体を壊しがちなのも春。持病の統合失調症が大爆発して入院する羽目になったのも春のことでした。東北で震災が起きたのも春です。春は苦手です。春を苦手とするあまり、私は人一倍春の気配に敏感です。菜の花や、空豆、筍、ウドといった食材を初めてスーパーで見つけると、「大変だ、大変だ」と思いつつ、急いで買って帰ります。うっかり油断をして、やってきた春に後ろから蹴り倒されないように、準備をしておく必要があるのです。もちろん桜餅や草餅も忘れずに食べておかなければいけません。

春の花々が順々に咲いていくのを注意深く見守ることも大切です。梅の花が咲き、水仙が咲き、沈丁花が咲く。経験上、桜の花が咲く頃から、つつじの花が散る頃までは、私はいつ正気を失っても不思議ではないのです。徘徊を抑えるために普段より外出を控え、薬を調整し、ひきこもりがちな日々を過ごします。テレビを点けると、やたらと「カットになって」とか、「発作的に」とかいう事件が起きているのもこの季節ならではです。木の芽時というだけあって、精神の調子を崩す人は私だけではないようです。人ごみを避けておとなしくしているのが安全です。

こんなに春が苦手なのに、幼い頃からの記憶を辿ると、いつも私は春の暖かな日差しの中にいます。チューリップやアネモネを見つめたり、レンゲソウの花を妹たちと三人で夢中で摘んで、首筋を日焼けで真っ赤にしたり、土筆が食べられることを知って驚いたり。何気ない思い出は、みんな不思議とこの季節に繋がっています。そして精神の安定を失い始めた十代の頃、咲き乱れる桜の花の下で、ふと不思議に思ったことがありました。

新学期が始まるのに、どうしてこんなにも悲しいのだろう。桜の花がこんなに綺麗に咲いているというのに、まるで世界がもうすぐ終わってしまうのを遠くから見守っているような心細い気持ちになるのはどうしてなんだろう…。今思えば、この感覚こそが病気の兆候だったのですが、私がそれを人に打ち明けることはとうとうありませんでした。

本当はどの季節よりも春が好きなのかも知れません。あまりにも春が好きなので、春が来るのが待ち遠しすぎて、つい自分を見失ってしまうことが多かったのかも知れません。ただ実際に毎年この季節になると病気が悪化する以上、好きとか嫌いとかは問題ではなく、春に対する警戒心を解くわけにはいかないのです。

あっという間に桜の花を見送り、やっと植込みに咲き始めたつつじの花を眺めながら、春という美しくも怖い季節が終るのを今か今かと待っている毎日です。今年もなんとか無事にやり過ごせたような気がするけれど、油断は禁物。

春よ、逝け。どうか、静かに、足早に。

転々（ペンネーム）名古屋在住。物書き志望。統合失調症暦20年

縁あって森の家に宿泊されたお客様です。

この文章に対するご感想などをお寄せください →reiko - daidouji@mva.biglobe.ne.jp



「僕のうしろに道はできる」

山元加津子 編著



まず、題が高村光太郎「道程」の一節。心惹かれた。

この道を作っているのは著者の「かっこちゃん」。福祉に関わっている者でアンテナを出している方にはおなじみかと思う。

今回かっこちゃんは、何らかの病気や事故で、俗に言う「植物人間」になった方や、生まれつきの障害などで、コミュニケーションを取れない人でも、反応が出来ないだけで、なんらかのコミュニケーション方法を見つければ、その人の思いが解かる、そして、それを見つける事によって、回復を見出せると確信をもっている。

それは「かっこちゃん」が長年の特別支援学級で障害を持つ子供たちと接し、そして脳幹出血のため植物状態となった、元同僚の宮ぶーとの関わりの中で教えられた。そのことを医療関係者、介護の現場で働く方の経験や、実績を織り交ぜながら、今までの常識と思われていた回復不可能、という壁を打ち破り、希望の光を与えてくれる一冊。

自分や家族が倒れた時 あたふた盲目的に介護をするのではなく、介護する側される側がよりよく生きられる方法を「かっこちゃん」が教えてくれている。

付録として DVD（力が無くてもできる介護法）や（脳を活性化する口のリハビリ）など
カラー版・別冊お話ノート（誰とでも気持ちを伝えあえるようにしたい）

2012年12月初版 現在三版 定価 本体 2000円 + 税

記 内田

風人 'S OPINION

アスペルガー症候群とは、発達障害の1つで、脳の機能や感覚・認知に偏りがあるが、知的な障害がない自閉症のこと

お久しぶりです、堀越です。

森の家で物書き見習いをやっております。

四月になりまして、新年度なので、アスペと変化について書きたいと思います。

状況が大きく変わることが多い四月はアスペには辛い時期です。今までしていた苦手を克服するための工夫が全く使えなくなることもあるからです。例えばひとまとめにして、忘れないようにしていた道具類が変わって忘れるとか、特に多いです。

例えば自分も部活でテニスの大会に出た時、新年度で場所が変わったのを忘れて別の会場にいたこととかがあります。

また、対人関係に慣れず心労が溜まってミスをすることもあります。これは健常者の方もあると思いますが、アスペはよりひどかったりします。

当事者としては、四月はアスペ関係のトラブルが増える月だと思います。アスペは変化が苦手なことが多いということを、周りの方が知ってくれれば、無くなるトラブルも多いです。新しいことが始まる時期は、特に理解してもらえたら嬉しいです。

こんなイベントありました



1 / 3 1,
2 / 1, 2, 7

毎年おなじみの「工房あかね」（障がい者の芸術活動を支援している高崎のNPO法人）からの出品に加え、自閉症の矢嶋瞭君の作品、のぞみの園利用者さんの作品、こがね荘陶芸グループの作品展示もあり。

Music 青木大輔フォルクローレ演奏、金井悦子のウクレレ演奏、オカリーズのオカリナ演奏、島村敦子ヘルマンハーブ演奏、トミザワエイコのコスベルソング、伴野あやめの唄、

Workshop パステルアート、キャンドル作り、さをり織、ピザ作り、バスボム作り、バスソルト作り

Lunch 手打ちうどん、付き立てお餅、ピザ他、日替わりシェフによるランチ提供

Serapy アロママッサージやトリートメント、整体、足湯等

フリマ&ミニバザー&福袋販売

福祉施設の製品販売 フィロスあけぼの・エール・ゆずりは・こがね荘・のぞみの園・みやま工房・プラム作業所・トモロの森・ワークショップきぼう

たくさんのお楽しみをご用意して、たくさんの方々のご来場いただきましたが、後半2日間は、雪の為中止となりました。



6 / 1 5

氏家裕子によるライア演奏と浦野洋子の詩の朗読

今年104歳で亡くなったまどみちおさんの詩と、

12月に講演でお呼びした特別支援学校教諭山元加津子さんの詩が朗読されました。

ライアは、胸に抱えて弾く小さな竖琴。

20世紀前半、ドイツで作られ、主にシュタイナー教育などで使われ、癒しの楽器とされています。

風だまり 和太鼓コンサート

6 / 2 2

和太鼓のプロ奏者関根まこと氏に師事する和太鼓集団「風だまり」は、毎年森の家で太鼓合宿を行い、その成果をふるさとセンターで地域の皆さんにご披露しています。地域の細野小学校の「絆太鼓」の指導もしています。

今年度は、松井田町の生涯学習「ふるさと塾」の事業として取り上げていただき、当日は100人以上のお客様をお迎えし、妙義山をバックに、その迫力ある、華麗な演奏をごらんいただきました。

こんなことをしています

森Café 毎週（木）

週替わりシェフによる体に優しい手作りのランチ提供。
森の家を知っていただき、障害があってもなくても共に交流する場として設定。月替わりで障害をお持ちの方々のアート作品を展示

福祉ランチ

障害者グループでの余暇活動支援メニューとして、ランチと休憩、オプションで、入浴、アロマセラピー、各種ワークショップ等のプログラムを提供。
一般のお店での食事が難しい方々にご利用していただきます。ミキサー食・刻み食にも対応。

森キャン 毎月1回ペース

（金）夜宿泊・飲み会？+（土）午前セミナー（部分参加OK、）
森の家を知っていただき、交流を深める、お泊りイベント。
セミナーテーマは「コミュニケーション」
「ゴスペル」「EM研究」等、様々です。

ピザ・マルシェ

6/1（年数回を予定）

ボランティアスタッフ星野さん制作のピザ窯で焼いたピザを食べながら花と緑とアート作品を楽しんでいただきます。
福祉の仕事場で作られた製品を販売いたします。
（お菓子・手作り品・ジャム・木工製品・陶芸等々・）
コンサート、フリマ、ミニバザーも実施。
どなたもおいで下さい。

企画中

12月7日（日）

昨年12月1日の大イベント「かっこちゃんin安中」と、2年間地元ふるさとセンターでやってきた「春市」の実績の上に、さらに、「共生の町」をイメージして構想中。
NPO法人（準備中）「ちびちびプロジェクト」と共催。

森の家にはセラピーメニューがあります

随時・ご連絡ください

デイ利用（ランチやイベント）時、宿泊時に、足湯マッサージ、スウェディッシュマッサージ、アロマトリートメント、整体、鍼灸等、各種のセラピーをご用意しています。
ご自分の体に注意を向け、整えるサポートは、体に優しい食事、ハーブのお風呂、館内外を彩る花々、夜明けの鳥たちのさえずり、川音や風の音、などとともに、森の家の癒しのメニューです。

事務局ニュース

森の家には 障がい割引 があります。

障害者手帳お持ちの方ご本人に対し、1泊2食7000円のところ、1000円割引（小学生以下500円）となります。2013年4月に始め、3月末までに、120名のご利用をいただきました。

障害をお持ちの方は、お一人ではなかなか宿泊利用が難しい、ご家族あるいはサポーターの同伴が必要な場合が多い、そのような状況に対して、少しでもご支援できればと考えての割引サービス導入です。

順調にご利用いただいております。

東京都休養ホーム事業の指定宿泊施設になりました

東京都休養ホーム事業は、障害を持つ方の保養等を目的として、東京都が指定した宿泊施設を利用した場合、宿泊料金の助成を行う事業です。障害を持つ方が利用しやすいような一定の設備の整っている施設の協力によって、事業が運営されています。全国の38施設を対象に年間約30,000の方が利用しています。

対象：都内在住の身体障害者手帳・愛の手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者

助成内容：障害者大人 一泊 6490円まで 障害者子供 一泊 5770円まで年間2泊まで
付添大人 一泊 3250円まで手帳所持者一人に対して一人まで

利用方法 ①希望の宿泊施設へ連絡し予約

②日本チャリティ協会へ予約済の連絡

③申込書を協会まで郵送→利用券が郵送される。（宿泊日の10日前めど）

④宿泊当日 利用券提出、障害者手帳提示。助成額を差し引いた金額を支払う。

*利用申込書と保養施設一覧冊子は各自治体の障害者福祉課福祉課及び出張所にあります。

◇問い合わせ先、申請窓口 (財)日本チャリティ協会

〒160-0003 新宿区本塩町1-7 千陽ビル5F

電話：03(3353)5942 FAX：03(3359)7964（聴覚障害者専用）

受付時間 月～金 9:00～17:00 / 土 9:00～15:00 / [昼休み-12:00～13:30]

****この制度は東京都だけのものですが、ぜひ情報を広めていきたいと思っております****
皆様、ご協力をお願いいたします。

セラピストのつぶやき

宿泊時セラピーを受けられたAさんは、身体の障がいとともに生きてこられました。が、「からだの痛みの原因や、今後生活して行く中でからのからだの強化方法など、分かってサポートしてくれるところがないんです」と不安を訴えられました。

タッチングで感じた筋肉疲労の場所、それが両杖使用で使っている筋肉と一致する事をお伝えすると、『あ～、痛みの原因をやっと納得出来た！分かってもらえてそれだけでも楽になりました』気づきから、心の開放も感じて下さった瞬間でした。

正会員：25名

天田和也、石井義通、石橋興子、内田康子、織茂加代子、狩野洋子、上泉歩、木下美幸、黒羽知代、小井戸絵理子、小林脩、小宮清、小宮弘美、小宮弥生、佐藤貴雄、佐藤智久代、瀧澤久美子、富樫真澄、深谷智子、藤尾正明、古溪理哉、星野和二・延子、堀越美妃、吉井貴志

賛助会員：238名

浅香千恵、浅川美保、阿部宗治、甘田恵子、天田文子、荒川邦孝・勝美、五十嵐聖子、井口澄男、池田誠司、池田智美、池田直子、石井昭子、石井征雄・恵子、石川理恵、石田亨子、石田実可子、石塚彩子、石原作知子、石渡正敏、一場正人、伊東葉子、今井悦子、今井茂、岩崎和子・久人、岩崎俊明、岩崎賢江、岩鼻愛里、上杉洋子、上野英雄、上原君代、上原恵子、上原静子、上原好枝、潮すみれ、潮忠男、潮晴美、内堀幸恵、榎沢郁子、梅本潤一、大久保妙子、大崎千都子、大塚聖子、大塚寿子、大前正巳、岡寿子、岡崎恵美子、岡島春枝・佳樹、岡庭秀雄・潤子、岡本京子、沖山雪子、小田みゆき、小野真理、小野寺光源・かなえ、小原敬太、影山太一、片山克司、勝村良一、加藤聖午、金井咲苗、金井伸一郎、金子由紀子・真梨子、金子修・光子、神山朝子、亀田俊子、川島真理子、川田明美、神戸小百合、神戸まさ子、北岡三知男、木村晃、木村薫、木村紀子、久住由紀子、熊谷充子、栗田俊昭、黒岩勢津子、黒羽正明、小池光江、小坂橋一恵、小坂橋のり子、郷原光子、小金澤直美、小久保雅子、小暮栄子、小嶋ゆり子、児玉葉子、小沼利樹、小林和夫、小林滋、小林智子、小林旨臣、小宮逸子、小宮為雄、小室てる、西郷孝彦・敬子、坂木ふさ子、坂本洋子、櫻井郁、櫻井ひとみ、櫻井三喜子、佐嶋貞康、佐藤郁子、佐藤和枝、佐藤和子、佐藤かほる、佐藤千賀子、塩川恒男、重田実、柴崎栄子、柴崎智美、芝原則子、澁谷惇江、島野健太郎、島村敦子、島村昌子、清水清康、志村加代子、下里沙羅、白石恵子、白川紀子、進藤陽一郎、神保弘、杉山すみ代、鈴木拓実、須藤いく子、須藤敏弘、須藤フジエ、角幸子、関智江美、大道寺彩子、大道寺玲子、高石知枝、高階ミチ、高階康彦、高橋洋子、高柳茂子、滝澤綾子、竹歳正子、竹中志津子、多胡恵美、多田貴枝子、只木ちよみ、伊達富美子、田中和子、谷川 弥、徳久純恵、戸田順子、伴野直美、中尾新之、長岡静枝、中島あゆみ、仲世古隆臣、中田静江、中西雅人、永沼勲・昭子、中橋奈穂子、長山由利子、名倉康之、鳴嶋誠、南部康光、西尾陽子、西村観気、根本直子、納富沙織、野村彬、萩原千栄子、萩原富治、蓮沼光世、畑山巻子、播田実 邦夫、濱口徹夫、早川恵子、林崎正史、原田てる子、原間啓史、美育津早由利、平井美子、平岡 亜理子、平林茜理子、平林紹代、深津弥恵子、福田晋児・典子、福田孝子、福田優子、福田幸子、藤尾正栄、藤尾孝枝、藤岡春樹、藤田祐子、藤野美枝子、古川佐喜子、古舘多美子、堀越風人、堀越洋治、本多栄一、本多操、本田豊・奈穂、松尾浩子、松下豊、松下蓉子、真庭孝子、黛栄子、黛恵美子、南順子、武藤幸子、茂木澄子、茂木昌子、森下修、森下博子、矢嶋洋子、安川江美、柳澤さく江、山川賢治・玲子、山口久代・克美、山口さとみ、山口テル子、山田せつ子、山田光雄、山村孝子、山本美智子、油木時子、湯本静江、湯本見千子、横田寛子、横谷香代子、横山節子、吉岡荘太郎、吉岡洋子、吉崎睦美、吉田恒子、吉田のり子、吉原恵子、依田雅尚、若林泰秀、渡辺佳奈実、渡辺聖、渡辺恒光、割石栩巳子

ご寄付

甘田恵子、荒谷英二、今井和彦、白川紀子、瀧澤久美子、たんぽぽ、匿名、中里正紀、西村観気、ヒューマン・インテグリティ、本島阿佐子、

法人会員

(有)ヒューマンインテグリティ (株)高橋ハウジング (有)ゆう優ハウス大和

2014年6月12日現在

◎ホームページURL <http://www.normanet.ne.jp/~morinoie/>

「まついだ森の家」で検索してください。

◎ ブログURL <http://matsuidamorinoie.gunmablog.net/>

「まついだ森の家里山日記。」で検索してください

◎ Facebook ご覧ください

◎ E-mail matsuida-morinoie-2007-npo@amber.plala.or.jp